

JASSO_令和3年度 障害学生支援専門テーマ別セミナー

「Withコロナ・Postコロナ社会における障害学生支援」

第二部 話題提供：障害学生支援スタッフから見たコロナ禍における変化

コロナ禍の障害学生支援を振り返る

村田 淳

京都大学 学生総合支援センター・准教授

-障害学生支援ルーム・チーフコーディネーター

-高等教育アクセシビリティプラットフォーム（HEAP）・ディレクター

出来事 Incident

- 大学全体の混乱と矮小化する障害学生支援（みんな大変…）
- コーディネートの手腕と冷静さが求められる状況（ノウハウとリソースの蓄積、そしてアイデアがものを言う）
- メンタルヘルス等との連動

生じた必要性 Response

1/2

- 障害学生支援の機能を維持するためのマネジメント
- オンライン授業への適応（クリアしなければいけない課題）
 - － 普遍的な目的・役割・機能・哲学の維持
 - － FD/SD
 - － 支援の詳細：京都大学 学生総合支援センター 紀要_実践報告
<https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/publication.html>
- 各種プロジェクトのオンライン化
 - － 学生サポーターの養成
 - － 社会移行支援（就労支援等）
 - － 高大接続・移行支援 他



生じた必要性

Response

2/2

- オンライン面談への適応

- ーメリット：遠隔地、休学者などの面談がしやすい、生活実態と困難さの結びつきがアセスメントできる

- ーデメリット①：面談前後の関係性が希薄になる、非言語のコミュニケーションやアセスメントが難しい

- ーデメリット②：インテークの難しさ、①の困難に加えて各学生の困難さが個人化してしまうことで、相対的な困りごとが発見しにくい

- 課題となった各種システム（LMS等）のアクセシビリティ

HEAP Project

高等教育アクセシビリティプラットフォーム (HEAP)

ウェブコンテンツ「コロナと障害学生」

<https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/platform/corona/>



- ・ コロナ禍における障害学生支援の実態を「生の声」で集約
- ・ 2020年度秋～冬にかけて障害学生及び支援関係者20名にヒアリング
- ・ 第2部として3名の専門家にインタビュー取材

これから Action

- 支援の普遍的な部分を確認＝「原点」の確認（「やるべきことや目的は変わらない」という事実から何を言えるか）
- 多様性へのチャレンジ（障害（ディスアビリティ）というフィルター）
- 回復過程でマジョリティが際立つ可能性があるが、その流れのなかで障害学生支援の位置づけを再度考える必要がある
→必要な支援の確保、組織としてのインフラ化